



## DISPLAYS MATTER

Customers can't buy  
what's not there

### 商品陳列に関する課題

正しい商品陳列ができていない場合、販売機会の損失を招きます

# RFID and in-store displays

## RFIDと、店内での 商品陳列について

小売の世界がどんなに変わっても、変わらないことがあります。買い物の仕方が変化しても、「適切な商品を、適切な場所に、タイムリーに提供する」ことは、これからも変わりません。

将来の小売業においても、リアル店舗は果たすべき役割があります。たとえば、米国の多くの消費者（85%）は、購買決定する前に、実際の商品に触れることを好むことが分かっています<sup>1</sup>。

今でも小売企業のビジネスにおいて店舗は最も周知されている部分の1つであり、ブランドと顧客を直接結ぶ接点を提供しています。

このことがブランド企業にとって、店舗デザインやレイアウトが非常に重要である理由です。ブランド企業と同様、小売企業もブランドのメッセージを来店者に伝えることが重要と捉えており、店舗のデザインやディスプレイコンプライアンス（＝指示通りに商品陳列を実施すること）を通じてこれを実践しています。

# 76%

購入決定の76%は  
店内で行われます<sup>2</sup>

# 58%

58%の割合で、店舗は計画どおりの  
商品陳列を実行していません<sup>3</sup>

### 商品陳列の難しさ

商品陳列の課題 — 購買決定の4分の3以上（76%）は店内で行われているため<sup>2</sup>、どのように商品を陳列するのかが小売業にとって重要です。

多くの小売企業では、特定の商品をどこに、どのように陳列するかについて、各店舗の責任者に裁量を与えています。また、何を陳列すべきかプラングラフ（棚割表）で指示を出している企業もあります。店舗責任者がこれをきちんと実行するという保証はありません。2016年の調査によると、半数以上（58%）は指示通りの商品陳列を実行できていません<sup>3</sup>。

店舗が通常営業している中で、来店者の行動によって陳列が崩れるのは当然のことです。来店者は商品を手に取り、試着し、間違った場所に戻し、購入します。そして、商品陳列の乱れに気づいて、元に戻す作業をするかどうかは店舗スタッフ次第です。この20年間、オンラインショッピングの出現をはじめ、小売業はテクノロジーを特徴としてきた業界です。ではなぜ店内での購買体験を向上するためのテクノロジーを利用していないのでしょうか。

## 商品陳列にまつわる一般的な課題や間違い 4



1

商品陳列が乱れている：  
店内で顧客の注意を引くための時間は8秒しかありません。  
どこに視線を合わせていいかわからないような  
乱雑な陳列では顧客の気を引くことはできません。

デザインプランに一貫性がない：  
人は規則性と調和を求めます。  
整合性のない陳列では、顧客は購入に至りません。

2



3

商品の種類と、手に取りやすさ：  
陳列のやり方によって、お客様に伝わるイメージが異なります。  
量が多すぎると、種類が少ない印象を与えます。  
種類が多すぎると、選びにくい印象を与える可能性があります。

陳列が商品の良さを表していない：  
商品の特徴を、陳列によって補完する必要があります。  
高級な商品には、それにふさわしい陳列が必要です。

4



### 解決するためのソリューションはありますか？

チェックポイントはRFIDに強い信念を持っています。  
小売業様のサプライチェーンから店舗に至るまで、  
RFIDによる業務改善を支援しています。

最も簡単かつ短い期間でRFIDの投資対効果を得る方法は、指示通りの商品陳列を実践できるようなRFIDを活用することです。RFIDを活用すると、陳列された商品を短時間で読み取り、棚割表やガイドラインと比較することができます。指示に沿った商品陳列を徹底するだけでなく、労力と時間も削減できます。

このRFIDのメリットにより、店舗スタッフは多くの商品から目的の商品を簡単に見つけ出すことができるため、小売企業にとって大きな価値があります。すべての商品がどこにあるのか、また、いくつバックルームにあるのかを誰も予想することはできません。RFIDは店内の在庫に関する推測作業をなくすので、店舗スタッフは顧客体験や顧客満足度の向上に集中できます。

チェックポイント社と連携して、ディスプレイコンプライアンス（＝指示通りに商品陳列を実施すること）を遵守するためにRFIDを導入するのはとても簡単です。必要なのは、商品に取り付けるタグ、ハンドヘルドスキャナだけです。

店舗スタッフは必要な商品にタグを貼付し、スキャナでエンコード作業を行います。このスキャナを使って、規定通りに商品陳列が出来ているのかをすぐに測定できます。

このセットアップはとても簡単なので、当日中に実行できます。長期間のコミットメントや先行投資は必要ありません。ディスプレイコンプライアンスにRFIDを活用することは、小売企業が自社にRFIDを導入するのに最適な方法です。

# 1% = \$3bn

1% = 30億ドル

ディスプレイコンプライアンスを1%改善すると  
小売業界の収益が年間30億ドル  
増加する可能性があります。<sup>5</sup>



## なぜ小売企業は、RFIDのようなテクノロジーが必要なのでしょう。

小売業は複雑かつ競争の激しい業界であるため、競争力を得ることはメリットがあります。

今日、多くの小売企業は海外に進出しています。在庫の追跡は、RFIDのようなテクノロジーがなくてはほぼ不可能になっています。テクノロジーにより、小売企業は可視性を得ることができます。

また、小売企業が将来を見据えるのにも役立ちます。2020年に出現した重要なトレンドは、オムニチャネルショッピングの台頭でした<sup>6</sup>。ロックダウンの最中、店舗で買い物ができなかったとき、人々はオンラインで購入しました。RFIDは消費者行動の変化を管理するのに役立つテクノロジーであり、効率的で正確な在庫管理を通じて、各店舗を小さなオムニチャネルフルフィルメントセンターへと変えることができます。

2020年の厳しい一年の後、小売企業が回復し、消費者が店舗にまた戻ることを奨励するにつれて、RFIDのような効果のあるテクノロジーを最大限に活用することは、2021年の小売業にとって最も重要になる可能性があります。

## RFIDをさらに活用する

RFID活用を通じて、メリットを得る方法はたくさんあります。

サプライチェーン全体で在庫を追跡できるため、在庫がどこにあり、いつ到着するかを完全に把握できます。

店舗に必要な在庫精度を提供し、チャンネル間で在庫情報を連携することで、オムニチャネル実現の可能性が開かれます。

店舗での顧客体験を最大化し、必要なときに、必要な商品を購入できるようにすることで、ブランドロイヤルティを向上できます。

# Where you go next with RFID?

RFIDを利用して、次は何を実現しますか？

**1** Improve inventory accuracy

在庫精度を向上する

**2** Enable omnichannel

オムニチャネルを実現する

**3** Increase customer satisfaction

顧客満足度を向上する

1 Insider Trends, Why does physical space matter in retail, July 2016

2 Shop Association, A display is a terrible thing to waste, 2016

3 Retail Leader, Execution is key to effective displays. Feb 2016

4 Creative Displays Now, Common mistakes in retail display designs and how to avoid them, Dec 2020

5 Retail Leader, Execution is key to effective displays. Feb 2016

6 Forbes, More customers are shopping online now than at height of pandemic, Jul 2020



## チェックポイントシステムズ社について

チェックポイントシステムズ社は、小売業向けにRFおよびRFIDを提供するソリューションプロバイダーです。テクノロジーの進化によって消費者の需要が加速している中、チェックポイント社はいつでも、どこでも、小売環境に透明性と効率性をもたらす、インテリジェントなソリューションを提供します。

ソフトウェア、ハードウェア、ラベル、タグ、およびクラウドベースのコネクテッド・ソリューションなどのユニークな提供を通じて、サプライチェーンと店舗全体でリアルタイムでの直感的なデータを提供することで小売業の業務と効率を最適化し、収益性の向上とカスタマー・エクスペリエンスの向上を実現します。

チェックポイント社のインテリジェントな小売ソリューションは、50年にわたるRF技術の専門知識、革新的なハイレース対策およびロス防止ソリューション、市場をリードするソフトウェア、RFIDハードウェア、ブランド向けの包括的なラベリング能力に基づいて構築されており、商品を製造時点から店舗の棚に至るまで保護、トラッキングします。

Corporate Headquarters,  
101 Wolf Drive, Thorofare,  
NJ 08086, USA  
[www.checkpointsystems.com](http://www.checkpointsystems.com)

## CCLインダストリーズ社について

CCLインダストリーズ社は、特殊ラベル・包装ソリューションにおける世界的なリーディングカンパニーです。グローバル企業から小規模ビジネス、また一般消費者向けに商品を提供しています。世界各地に180の生産設備を展開し、約21,000人の従業員を有します。本社はトロント（カナダ）およびフランシスコ（カリフォルニア州）にあります。

## チェックポイントジャパン株式会社

〒105-0012 東京都港区芝大門2-4-7 浜松町ウエストプレイス Tel : 03-5425-8040 Fax : 03-5425-8045  
メール : [contact.csj@checkpoint.com](mailto:contact.csj@checkpoint.com) [www.checkpointjapan.co.jp](http://www.checkpointjapan.co.jp)